強迫症状を訴える少女の治療的退行の検討

A study of the therapeutic regression manifested in a girl with obsessive-compulsive symptoms

土屋 満知

愛知みずほ大学人間科学部

Machi TSUCHIYA

Faculty of Human Sciences, Aichi Mizuho College

要旨

本研究は，強迫症状を主訴とし精神科クリニックに来院した小学生女児の事例を治療的退行の視点から論じたものである．①予備面接段階においてどのようなアセスメントを行い，治療方針を立てたのか．さらにその後の治療経過はどうであったのか．②治療面接過程における治療的退行と判断されたクライエント（以下 Cl と略）の言動を抽出すること．以上の①・②を通して心理療法における治療的退行を促進する条件を検討した．

強迫性障害の治療では，知性化などの防衛を最小限にし，Cl の情緒にたどり着く必要があり，児童の心理療法では言語を媒介としない非言語的治療手法がより望ましい．心理療法の過程では，Cl に治療的退行をもたらすような治療者の働きかけが重要であり，治療的退行を利用することによって心の治療が進展する．治療的退行を促進させる条件として，治療者は①保護者の役割を治療状況の中に位置づけ，治療構造を整えていく視点，②Cl の退行した心の世界を共感的に理解し，受け止める必要があることの 2 点から考察を行った．

キーワード: 強迫性障害； 心理療法； 治療的退行

Ⅰ．問題と目的

退行は，防衛機制として使われる発達論的な退行と自我の働きが悪くなってしまう局所論的退行に分けられる．防衛機制として用いられる退行は，発達的に以前の未熟な段階に戻ることである．これに対し局所論的な退行は，Freud,S.が提唱した考えであり，1900 年の『夢判断』の中で最初にこの「退行」という言葉を使用した．Freud,S.は，退行は夢過程の心理的特性であり，夢は退行的性格を持つと述べ，夢を見ることは退行現象が起きているのだと考えた．また，退行は神経症的症状形成の過程においても大きな役割を演じていることを指摘し，ヒステリーや妄想症（パラノイア）の幻覚などは，退行と見なすことができるとして退行を病的なものと考えていた．

その後，この退行については様々な議論の変遷があり，「健康な退行」という側面があることが知られるようになった．Kris,E.（1934）は，風刺画の研究を通して創作過程で生じる生産的な退行を「自我による自我のための退行（regression in the service of the ego）」として捉え，病的あるいは未分化な心理的過程とされていた退行の概念に創造的側面があることを見出した．小此木・馬場（1972）は適応のための退行と防衛としての退行を区別しており，Kris,E.が見出した退行には，適応性，生産性があり，そのような退行を通じて自我は無意識から生産的なエネルギーを獲得することを指摘している．健康な退行の条件として馬場（2016）は以下の 3 つを挙げている．①退行が一時的であること．②部分的であること．③退行することが自我の役に立

つこと．即ち，退行することによって自我は，その間，自我の監視や現実検討力を働かせることを休止していられるため，さらにエネルギー補給ができ，うっ積したエスのエネルギーを解放することができること．

Gitelson,M.（1962）は，心理療法の開始時に作用する，主に非言語的な事柄について述べ，治療初期の治療者の保護的態度が Cl の治療的退行を促進することを示唆している．また，馬場（1990）は Kris,E.の言う「退行の創造的側面」が持続することが望ましい治療過程であると述べている．このように治療的退行の重要性は，多くの研究者によって論じられている．

本研究では，強迫性症状を主訴として，精神科クリニックを訪れた小学生女児の事例を取り上げる．①予備面接段階において，どのようなアセスメントを通して，どのような治療方針を立てたか．さらにその後の治療経過はどうだったのか．②治療面接過程における治療的退行と判断された Cl の言動の抽出．③以上の①，②を通して心理療法における治療的退行を促進するあり方を検討することが目的である．

Ⅱ．事例の概要

Cl：来院時小学 5 年生女児．

主訴：知らない間に人を殺したりするのではないか等，嫌なことを考えてしまう自分が辛い．不安．手洗いのことや細かなことが色々と気になってしまう神経質を治したい．症状は来院の約半年前からあり，Cl 自ら受診を希望した．

家族構成：Cl は「父，母，Cl，妹の 4 人家族」と説明した後，しばらくしてから「今，お父さんとは一緒に住んでいない．でも 4 人家族」と述べる．

生活歴：（母親より聴取）　出生時，乳幼児期に特に気になることはない．父親（会社員）・母親（公務員）・Cl・妹（Cl の 3 歳下）の 4 人家族．来院時の 3 年前より父母の性格の不一致やすれ違いにより父親のみ別居中．別居前は，両親が喧嘩する姿を見ていた Cl も辛かったと思うとのこと．別居後，妹は父親と会っていたが，Cl に母親が「(父親に会いに) 行く？」と聞いても「行かない」と言い，いざ会うつもりでも会う日に鼻血が出て行けなくなり，会えていない．妹は自由奔放な感じ．Cl は，母親が仕事と家庭のことで大変だとわかっているので，妹の面倒を率先してみてくれるなど，先回りして助けてくれるところがあり，気を遣わせているところがあると思う．

治療方法：薬物療法と心理療法を併用して実施．初診時から低用量の抗不安薬が処方されている．

面接構造：精神科クリニック面接室にて，原則 1 回 30 分・週 1 回．プレイルームではないが，面接室内にある箱庭や画用紙，クレヨン等を適宜使用した．

倫理的配慮：事例はプライバシーを考慮し，その本質を損なわない範囲内で修正を加えた．論文等の発表については，保護者の同意を得ている．

Ⅲ．初診時に実施した心理検査および見立て

初診時に以下 2 つの描画法を実施した．

（1）S-HTP（統合型 HTP）

「家と木と人を入れて，好きな絵を描くこと」を教示し，枠付けした画用紙を手渡す．描画は図 1 に示す．

絵のタイトルは「散歩」．「貧乏そうな人が住む家．兄妹で，高校生ぐらいの兄と幼稚園ぐらいの妹の 2 人だけで住んでいる」．絵に描かれた人物は「散歩に出て家に帰ろうとしているところ．木はリンゴの木」．

家，木，人を羅列的に描き，全体的に空白が目立ち，寂しい印象．各アイテム間に関連性は見られず，人は棒人間として描かれており，精神的なエネルギーの不足を感じさせる．家には兄妹 2 人が住んでいると言うが，1 人しか表現されず，高校生の兄と幼い妹の 2 人で住む家というのも何とも心細い．家には窓はあるものの，ドアは描かれていない．自由に出入りしてエネルギー補給できる保護的な守りがある場所として，家が十分に機能できていないことが示唆される．

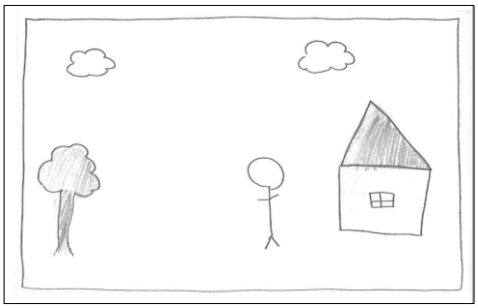

図 1．初診時に実施した S-HTP

（2）人物画（自画像）

「自分の絵を描いてもらいます．画用紙は好きに使って，からだ全部を描いてください」と教示し，自画像を描いてもらう．描画は図 2 に示す．

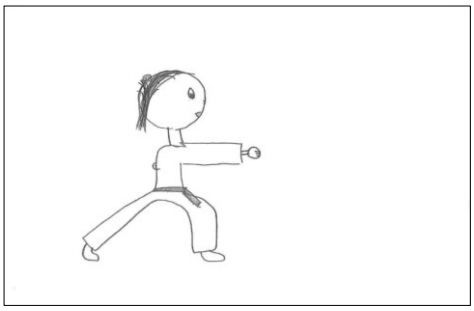

図 2．初診時に実施した人物画（自画像）

「空手をしている．一生懸命やっている」．Cl は普段から空手教室に通っており，楽しいと言う．その様子を描いたと思われるが,空手の型の構えを行う姿は,精神を統一し，ピンと糸が張りつめた清々しい緊張感が漂うものであることを考えると，緊張した状態にあり,息を抜くことが難しいのではないかと感じられた．

(3) 見立てと心理療法の方針

強迫性障害．神経症水準．Cl は年齢よりも大人びた雰囲気で，子どもっぽさに欠けている．別居中の父親について尋ねても「別に普通」と言う程度で多くは語らない．母親など，大人の気持ちを察して動いてしまうところがあり，知性化や反動形成などの防衛機制を用いて感情や本心をごまかしていると思われた．心理療法では“非言語的なもの”を大切にし，情緒的なものを表現できることが必要であると考えた．

Ⅳ．治療経過

小学 5 年生 3 月末から小学校卒業までの 1 年間，計 38 回の面接を実施．Cl や母親の発言は「」，治療者（以下 Th と略）は，＜＞で示す．

第 1 期（#1～#4）予備面接；関わりへの手探りの時期

Cl は面接室にあったジェンガ（積まれたブロックタワーの中から順番にブロックを抜き取ってタワーの一番上に載せて行き，タワーを倒した人が負け）に興味を示し，このゲームをやりながら主訴や家族，学校に関する事などについて話をする（#1～#3）．

「手洗いの時の泡が気になってしまう．食器洗いをすると気になって何度も洗ってしまう（#1）」．Th が父親のことを尋ねると，「小学 2 年生の時（父親と）別れた時期があって，小学 3 年生になってまた一緒に暮らすようになった．でも今は 2 年ぐらい会っていない．1 度お父さんが妹と一緒に出掛けようって約束していたことがあって，その時に玄関で 1 度見ただけ．お父さんはお母さんのことが嫌いなんだと思う」と話す．

#1 の面接後，母親のみで来院してもらい，Cl の生育歴などを含めて話を聴く．Cl の症状として「（食器洗いやハンドソープの）泡がついた手でテーブルを触って，妹がそれを舐めたら死んじゃう．殺人とかになる？，Cl が床に新聞を置き，それをそのままにして，妹や母親が滑って転んだら犯罪になる？って聞いてくる．最近は，小学 4 年生の時にあんなことしちゃった，こんなことしちゃったって，大したことないことを毎日毎日懺悔．それで地獄に行くんじゃないかと恐れている」．

＃2 は 10 分遅刻．「お母さんが帰ってくるのが遅かったから」と Cl は遅刻した理由を述べる．Th は，仕事をしながら毎週 Cl の受診に付き添う母親の大変さを考えた．と同時に，受診自体も Cl 自ら希望したものであり，Cl との治療関係を安定させるには，毎週，Cl を医療機関に連れて行くという母親の役割を改めて母親の中に位置づけてもらう必要性を感じる．

引き続き，#3，#4 と Cl は気になることを話す．「コンセントの周りにビニールがあって燃えてしまわないか心配．私が（ビニールを）動かして何かあったら私の責任になってしまう．罪になりそう．（Cl のせいで）お母さんがストレス溜まって長生きできないって思って，（そうなったら）殺しとかそんなことになるかもって思う．お母さんは気にしなくていいよと言うけど，気にする（＃3）」．そのような不安に対し，Cl は「気になることをお母さんに言うと，大丈夫って言われて，あぁそうかって思って，その繰り返し（#4）」と話す．Th は Cl に関わる情報をできるだけ集めながら，今後の Cl との関わり方を模索する．

第 2 期（#5～#15）Th に見守れながら Cl の中にあるものを排出・撒き散らすかのように取り組む時期

見立てと心理療法の方針に従い，#5 から箱庭を導入．初作品は「サバンナ（図 3 に示す）」．中央の「ライオンがシマウマを食べようとしている．象は水を飲み，サイは草を食べている．Cl は家族と一緒に車の中でライオンを見ており，襲ってきたら怖いと思っている」．

これ以降の面接では，箱庭を作り，残った時間はさらに絵を描くか，箱庭は作らず絵を描くようになる．絵は Cl が 8～9 割方を先に描いたものに Th が 1･2 アイテムを追加し，最終的に Cl が絵を完成させる形で，Th と Cl の相互交流があるスタイルで行った．

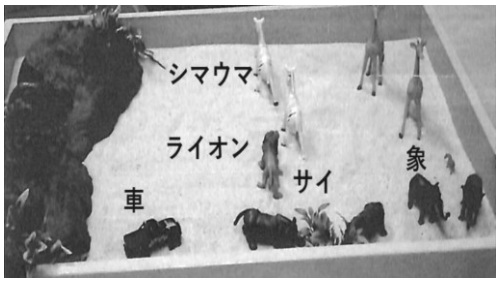

図 3．#5　箱庭「サバンナ」

#7 の箱庭では，砂箱の中に海の世界を表現し，「海の中（図 4 に示す）」．「海賊船が海に沈み,サメがやってきたり，海藻のところに魚が隠れていて，タコが魚を食べようとしている．親子のカメがいて，Cl は魚たちを見ている」．

＃8 では Cl が「話したいんだけど…」と言い，箱庭制作はしない．「本当に殺したいのかって思ったり，わからなくなったり．自分に私は誰かを殺したいの？って聞くのが嫌．だけど聞かないと自分がわからない」．

#9 の箱庭「動物の住む世界（図 5 に示す）」．「ジャングルの外れ．ジャングルを抜けたら動物のいる所が

ある」．Cl の作るジャングルは，無意識の世界では不快なものがぐちゃぐちゃに広がっていることを Th は感じる．

図 4．#7 箱庭「海の中」

図 5．#9 箱庭「動物の住む世界」

#14 では 10 分遅刻し，サーモン，いくら，たまご，ソフトクリーム，ラーメンなどを描き，回転寿司を楽しく食べている家族らしき姿を表現する．タイトルは「たべほうだい！！」．Th が用紙の左隅に人の顔を小さく 3 つ描くと，Cl は Th の描いた人の顔に吹き出しを描き,「幸せ～」,「うまいっ」という言葉を追加する．さらに楽しそうな様子で「ビールもどうぞ！！」,「ハイ水！！」と言う文字とビールや水の絵を追加する．

#15 も 10 分遅刻．箱庭「豊かな森（図 6 に示す)」．砂箱の四隅の淵にそれぞれ 1 羽ずつ鳥を置く．「この鳥は森を守っている．鳥は肉食．鷹が来たら追い払う．森で兎が遊んでいたり，タヌキがウロウロしていたり，バンビがいたり．動物が仲良く暮らしている．だから狐とかもいない．バンビは迷い込んだ」．Cl は真ん中にいて動物たちを見ている．Th は森に迷い込んだバンビと Cl の姿が重なり，Cl の不安感の表現であると感じる．森の守護神的な鳥が 4 隅に配置され，守りの機能が出てきている一方で，「鳥は肉食」であり，森にいる動物を食べてしまうかのような表現に Cl の不安定でアンヴィバレントな心の世界がうかがわれる．

母親から申し出があり，#15 の 2 週間後， Th は母親と面接を行い，家庭での Cl の経過を聞く．母親は「時々，妹が Cl の嫌なことをしたのをきっかけにワ～って泣いたりして，感情のコントロールができない時はあるが，家での様子は以前より落ち着いてきている」ことを報告する．また，父親が入院し，母親がお見舞いに行き，体調がよくなって会おうという話になった．父親が Cl には直接会ってはいないが，Cl の習い事の大会を見に来たこと，父親と会った妹が Cl の誕生日プレゼントを父親から預かってきて，それを受け取った Cl が「父親にお礼を言わないと」と言っており，父親との関わりが少し見られ始めていることを聞く．

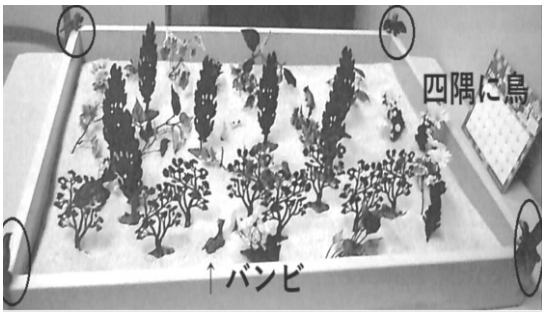

図 6．#15　箱庭「豊かな森」

第 3 期（#16～#19）バラバラに排出されたものが統合に向けて不安定ながらも進み始める時期

#15 の後，Cl の塾や学校行事，母親の仕事の都合等で 5 週連続で面接のキャンセルが続く．1 ヶ月以上空いた#16 は学校の夏休み期間中であり，母親と妹，親戚と海外旅行に出かけたことが報告される．箱庭では，砂箱の砂を掘って海の水を表現し,「にぎやかな海」を制作する．「遠くの方に船があって，カメが卵を産みに行く準備をしている．魚は敵から身を守っている」．Cl 自身も「カメの傍で潜って遊んでいる」と説明する．

これまでの箱庭でも動植物や魚というアイテムがよく用いられており，基本的に Cl は動物や魚を「見ている」あり方であった．今回の箱庭では初めて Cl 自身も箱庭の中で表現されたアイテムと関わっており，動的な表現がなされるようになった点に変化を感じさせる．

#16 の翌週は母親から電話があり，「塾から Cl がまだ帰って来ていないためキャンセル」となる．

＃17 は「食べものの世界」というタイトルで絵を描く．この回の面接後，母親より「Cl が 2 週に 1 回でいいと言っている」と面接頻度を減らす提案がある．Th は＜これまで通りの面接頻度で来てもらうこと＞を強く勧める．母親は隣にいた Cl に「どうする？」と尋ねたところ，Cl が「来週も来る」と言うため，ひとまずこれまで通りの頻度で面接を行うことになる．

#18 の面接は，妹の塾の帰りが遅く，それを待っていたために 10 分遅刻．箱庭「道路(図 7 に示す)」．囲いが砂の中にできる．「工事現場．ダンプカーが入って

来て，ショベルカーがダンプカーの運んできた砂を取る．Cl はショベルカーを運転している」．Th は箱庭に表現される Cl のあり方に動きが出てきている点を感動的に受け止める．自ら建設機械のハンドルを握って作業をする Cl 姿は，エネルギーを感じさせるものであり，工事の過程を得て，新たな心の建造物が建設されることに Th は想いをはせる．

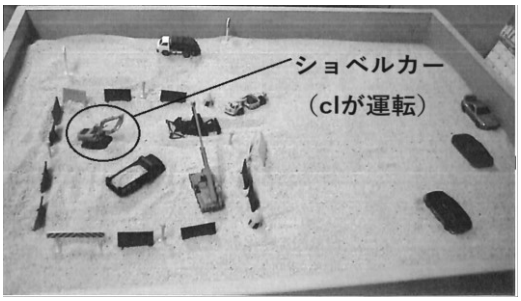

図 7．#18　箱庭「道路」

翌週の面接では，Cl の塾が長引き，来院が遅くなってしまうためキャンセルとなる．しかし，Cl の代わりに母親が「話がしたい」と来院され，Th は母親と再び面接をする．母親は，「Cl は塾に行きたがり，勉強する意欲が以前よりも出てきている．来月には英検を受ける予定」と，以前よりも勉強に意欲的になっていることを語る．また母親は，Cl の住所が変わる可能性についても言及する．現在小学 6 年生であるが，「中学校受験をすることは考えていない．3 学期が始まる前の冬休みに引っ越しをする予定になっており，中学校は学区外の中学校へ行く予定だった．しかし，ここ半年ほど学区内の中学校に行きたいと自分の希望を言うようになった」と話す．また，「妹が父方祖母の家に出かけ，Cl と母親 2 人だけになった日があり，Cl の学校であったこととか他愛もない話をした．自然の森ツアーに妹は行かないと言ったので，Cl と母親だけで出かけたが，楽しかった」ことなどが報告される．

母親と Cl の 2 人だけで過ごす時間が以前よりも自然と増えており，母親が安定して Cl に関わっていることを Th は肯定的に聴く．母親の Cl に対する受け止め方に変化が見られたことも Cl の勉強への意欲や，中学校についての自分の希望を口にするあり方に繋がっていると感じられた．

その一方で，母親は，「時間的に…，やりくりがつかない気がする．塾も家の近くにあるわけじゃないから」と述べ，Cl が毎週，塾と面接のために通院することの両立が難しいことを示唆する発言も見られる．Cl が中学校へ進学すると，時間的には通院することがさらに難しくなることが予想され，Th は Cl の心の治療にとって，今が大事な時期であると強く感じる．そのため，母親に対し＜小学校卒業のタイミングで一旦面接を終結するということは選択肢の一つとしてあり得る．しかし，それまでは Cl を毎週，面接に連れて来てほしい＞ことを改めてお願いする．母親はこれを受け入れ，以降，Th—Cl を取り巻く面接構造は安定する．

#19 では「英検があるから勉強をやっていて疲れた．ハードにやってきた」と話す．「海の中（図 8 に示す）」というタイトルの絵を描く．海の中でクジラやカメ，人魚，クラゲ，タコなどが楽しそうに泳いでいる．フランス語で海は mer，母は mère と，発音は同じで，表記もほぼ同じであるように，「海の中」という絵は母親の子宮の中への退行を意味していると考えられた．Th はそのイメージから連想して海の中で泳ぐ女の子とイカを追加して描く．

#20 は母親から「Cl の習い事などの都合で，2 週続けてキャンセルしてほしい」との連絡がある．

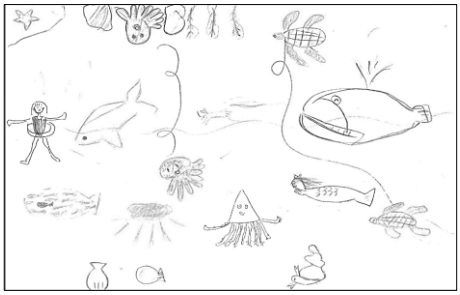

図 8．#19　描画「海の中」

第 4 期（#20～#38）Cl，母親,それぞれの役割の自覚のもとに家族イメージの再統合が行われる時期

Th は#20 の面接はないと思っていたが，面接の開始 15 分前に母親から「Cl が今日行きたいと言っている」と面接依頼の連絡が入る．Cl の面接への前向きな発言を聞き，Th は一つの山場を乗り越えられたと感じる．

#20 の箱庭では，初めて人間のミニチュアが 1 体置かれる．タイトルは「人間を追い出そうとする動物（図 9 に示す）」．「ライオンがリーダーで，皆に命令して（人間を）入らせるなって．シマウマも人間が来たから追い出そうとしている」と説明する．人間を追い出すという動物たちの荒々しいエネルギーを感じさせるものであり，動物対人間の闘いは，Cl の中にある攻撃的な心であろう．自然界の動物の世界にとって，人間は異質な存在であるが，箱庭に登場した人間というのは常識を語る母親像ではないかと思われ，退行した心にとっての異質なものを外へ追い出すというあり方が表現されたのは，Cl にとって良いことだと Th は感じる．

#21 はコラージュを実施．ソファーや棚，キッチン雑貨，座布団などを丁寧に整然と切り貼りし，「家の中」を表現する．主治医による診察の際には，母親から「症状が落ち着いているので薬を減らしたい」との申し出があり，処方されている抗不安薬が減量となる．

図 9. #20　箱庭「人間を追い出そうとする動物」

#23 はコラージュをやるが,「やっぱり話していい？」とコラージュを中止して話を始める.「急に嫌なことを思って．ムカついたらすぐに殺す！とか．自分の心が 2 つあるみたい．妹と歩いていて遠くから車が来て，大丈夫って思うけど，（妹を）殺してやるって思って（涙）. 最近は気にしてなくて，でも今日は気になって･･･. あれはやっぱり本気だったのかもしれない」と話し，面接室で大泣きする. そしてこの話は母親には「言わない方がいい」と言う．Th は涙を流す Cl に対し，＜（症状は）自然に消えてなくなるから，大丈夫になっていくから＞と応え，Cl を不安にさせる考えを Th-Cl の 2 人の秘密として持っておくことを提案する. Cl は頷く．これまでは，自身を不安にさせる思考や観念を母親に話していたが，Th-Cl でこの秘密を抱えておくことができるようになったことの意味は大きく，Cl の現実検討力が増したと感じられる.

#24 では箱庭で「海底とアマゾン（図 10 に示す)」を作る．中央が木で仕切られ，海の世界とジャングルの世界に二分されている.海底の世界ではヒラメやタツノオトシゴ，タコ，カメ，サメといった生き物が砂の中に置かれ,「海底はほとんどの動物が砂に隠れている」. アマゾンでは，樹木とともにコブラや蛇，トカゲといった爬虫類が複数，配置されている．Cl が自分で抱えきれなかった不安な世界の表現であると思われた.

箱庭を作り終えると,「なると＆雨＆晴れ」という絵も描く．太陽と雨，カタツムリが描かれ，中央に（食べ物の）なるとがあるという不思議な絵である．箱庭同様，晴れと雨の 2 つの世界に分かれているが，中央になるとが描かれることで対立する 2 つの世界を Cl が同時に抱え込めるような感じが少し出てきているのではないかと Th は感じる．Cl が描いた「なると」を Th は雲に見立て，晴天と雨の 2 つの世界を行き来するイメージで雲に乗った雷小僧を追加する．絵を描きながら Cl は「今度，携帯買ってもらう．（母親に）いっぱいお願いした」と嬉しそうに話す.

#25 の箱庭「動物達」.「フクロウは下に来てみんなと話している. 犬も猫と仲良くしようって思っている」. これ以降，箱庭では肉食獣ではなく，猫や犬などのペット系の動物を置くようになる. #27 の箱庭は「街（図 11 に示す)」.「交番や教会．車が普通に走っている．Cl は 4 人で家に住んでいる」．Th は#18 の「道路」から「街」ができ，4 人家族の家という Cl の理想が表現されていると感じる.

#25, #31, #32 で描かれた絵は「たべもの」, #26「クリスマス」．＃25 はリンゴ，栗，ブドウなど季節の味覚，#26 はクリスマスケーキやチキン，＃31 は人参の教師がリンゴの生徒に勉強を教えている様子，＃32 では様々なお寿司が描かれ（図 12 に示す)，いずれの絵も食べ物やそれにまつわる楽しい雰囲気の絵である.

図 10. #24　箱庭「海底とアマゾン」

図 11. #27　箱庭「街」

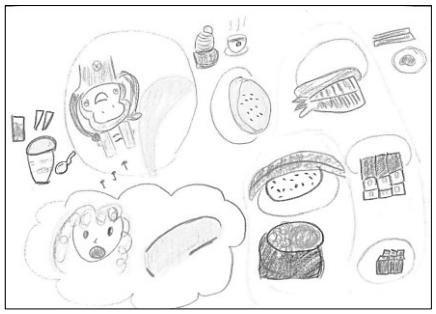

図 12. #32　描画「たべもの」

#29 は「絵を描きたい」,「最近は自分で（症状は）大丈夫かなって思う. 自分で解決できている」と言う. 絵のタイトルは「植物ときのこ」. 携帯会社のマスコット的キャラクターのきのこが描かれ，携帯電話を手に持ち，楽しそうに通話している.

#34「動物の侵略（図 13 に示す）」．年配の男性を砂箱の左上端に配置し,「最初はこの人がここの土地をまとめていたけど，動物たちが入って来て困っている」．#20 は動物に人間が追い出されていたが，#34 では不完全ながらも，人間が動物や土地を統制する状態に変化している．箱庭の中に登場した年配の男性は，“父親なる人”であり，父性機能なるものが家庭の中や Cl の心の中に位置づけられてきているのではないかと Th は感じる．さらに，箱庭制作後，「夕日」の絵（図 14 に示す）を描く．真っ赤な夕日が海に沈もうとしており，海に浮かぶ船と海を泳ぐ多数の魚が描かれる．Th は絵に加筆はせず，Cl と一緒に綺麗な風景を眺めているような気持ちで，Cl と共に夕日を赤く色鉛筆で塗る．

図 13．#34　箱庭「動物の侵略」

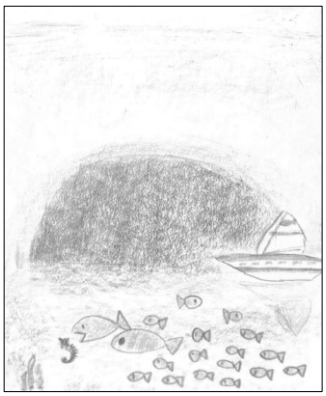

図 14．#34　描画「夕日」

母親からは「症状が落ち着いたため，小学校卒業のタイミングで面接を終了したい」との申し出があり，#36 で Th は Cl に面接の終結を予告する．#36 は「お花」のタイトルで絵を描く．Cl はバスケットに入った花，花瓶の花，鉢植えに咲いたチューリップ，バラの花束といったたくさんの花を描く．それはまるで Th-Cl という治療関係の卒業を意味するかのように Th には感じられる．Cl が描いた花の絵の下に Th は鳥が幸せの種を蒔き，その芽が出て，やがて大きな桜の木になるイメージで加筆し，Cl の出立に祈りを込める感覚になる．面接の終了時間になるまで 2 人で絵に色を丁寧に塗り重ねる．

小学校の卒業式後に#37 となる.「卒業式は大泣きだった」と笑顔で Cl は Th に報告をする．箱庭「自由の国（図 15 に示す）」.「中央にかき氷があり，猫が食べてベロを出している．2 匹の蛙は昼寝をしたり，ボ～としたり．右側の空を見上げている猫が好き．Cl は中央の猫の傍にいて，かき氷を食べている」．動物たちが自由にリラックスしており,動物たちに交じって Cl もかき氷を食べてまったりしているイメージである．

箱庭制作の後，初診時と同様に S-HTP（図 16 に示す）を実施する.「田舎暮らし」.「女の子が 1 人暮らしで，自分で全部やって頑張っている．寂しいとか思わなくて 1 人で明るくやっている．家の中はテレビはあるけど，科学的なパソコンとかはなくて，田舎っぽい感じ. どっか知らない人が住んでいる」と説明をする．

紙面の余白が目立った図 1 の S-HTP と比較すると，背景も含めて彩色され，山や太陽などが追加され，余白がなくなっている．人は，変わらず棒人間的表現ではあるが,笑顔が見られ,筆圧も太く濃くなっている．家は頑丈なレンガ造りになり，家への出入りができるドアもある．全体的に温かい印象で，エネルギーを感じさせるものに変化している．

樹木の配置からは，父性的なものが家庭の中に少し位置づけられてきているようである．丸太が家への出入りを妨げるように置かれており，一人暮らしで，自分で頑張っていると言っている点は，Th としては気にかかる．しかし現実に対処する心のエネルギーは回復し，最低限の心の土台作りは行えたと考えられた．

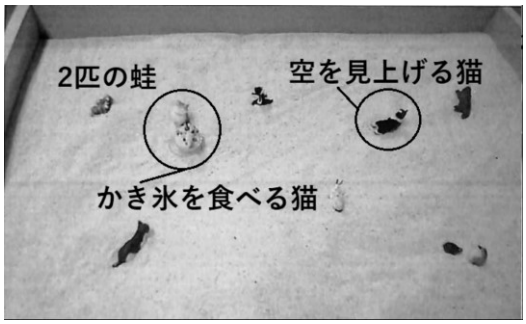

図 15．#37　箱庭「自由の国」

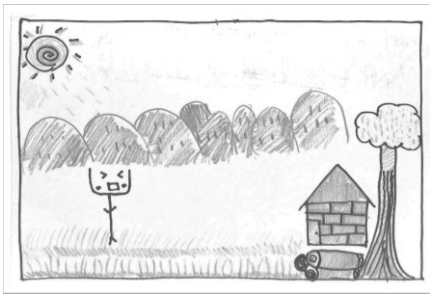

図 16．#37 に実施した 2 回目の S-HTP

最終回の#38 は 15 分遅刻し，絵を描く．池を泳ぐ親カモ 1 羽と小カモ 3 羽，地上には親鳥と小鳥 3 羽がいる．親カモや親鳥が 1 羽である点は，Cl の家族状況と重なるところを感じさせる．Th は池の上に風船を追加し，Cl の描いた親鳥を真似て特徴の似た鳥を描き，その鳥が卵を温めている様子を追加する．この風船は#36 で Cl の描いたお花の絵に Th が加筆した“幸せの種”が風船に乗って池の上まで飛んできたという Th の連想によるものであった． Cl が絵のタイトルを決める際には，「風船」が入り「とり＆風船＆カモ」（図 17 に示す）となる．Cl は進学予定の中学校の話をし，症状が落ち着いていることのお礼を述べ，終結となる．

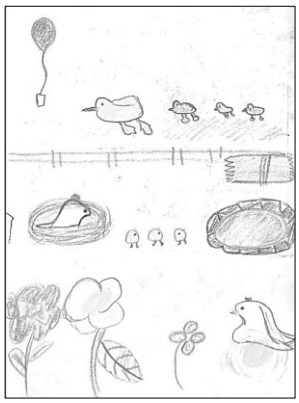

図 17．#38　描画「とり＆風船＆カモ」

Ⅴ．考察

（1）強迫観念の背景にあるメカニズムへの理解と治療方針，治療経過

#1～#4 は予備面接と位置づけ，情報収集を行った．Cl の主訴には母親や妹が死んでしまう，自分が殺してしまうのではないかという考えがある．この考えは Cl を不安にさせ，自ら精神科受診を希望させるほどに至っている．Cl は父親と数年以上も別居状態となっており，本音の部分には，家庭を巡っての母親への怒りと複雑な思い，母親に素直に甘える妹への怒りや不快感などがあるのではないかと思われる．

西村（2012）は，精神力動的な理解を背景に置き，強迫観念については 2 つの側面があると指摘している．「本人の内面生活が突出しようとし，それを打ち消し，否定しようとしている．片方では本音を言い，他方で打ち消す.症状が本人の心の葛藤をそのままあらわしている」．つまり，一方ではそのような考えは起こってほしくないと思いつつ，実はそれが起こってほしいとも思っており，アンビヴァレント（両価的）な考えの間で葛藤していると考えられる．即ち，Cl の無意識的な本音を代弁したものとして強迫観念が生じているが，それが意識化されないように湧いて出てくる強迫観念を Cl は打ち消し，否認し，母親からも「大丈夫」と言ってもらい，打ち消してもらっている．強迫症状は Cl の心の葛藤そのものなのであろうと考えられた．

また，母親の話によると，多忙な母親を思い Cl は妹の面倒を積極的にみるなど，母親の事情を汲んで行動していると思われた．小此木・馬場（1972）は「肛門期において一定の時と所での行動や社会的なルール，善悪，清潔，不潔などの価値判断に従うことを学習する際，子供は激しい反抗，敵意と従順さを示すことで親の愛を得たいという愛情欲求との葛藤を経験する．そして後者が前者を反動形成すれば従順なよい子としてほめられる」と指摘しているが，母親に対する Cl の従順さは，敵意の反動形成ではないかと感じられた．

Cl は気になる症状を言語化し，知性化して話し，不安や恐怖を訴えるが，言語を中心とした面接では，予備面接段階で予想されたような，Cl の反動形成や知性化といった防衛のあり方に阻まれ，症状にまつわるエピソードが語られるだけで，その背景にある Cl の情緒や葛藤が表現されにくいと考えられた．本音を防衛するあり方を最小限にし，Cl が心の本音を自由に表現できる時間と場所を提供すること，そのための治療手法は非言語的表現方法を重視したあり方が最適であるとの心理療法の方針が導き出された．

Th が推測したような Cl の本音は，面接の場で具体的に語られることはなかったが，予備面接終了後に導入した箱庭で#7「海の中（図 4)」，#9「動物の住む世界（図 5)」，#15「豊かな森，バンビは迷い込んだ（図 6)」などの表現には，心の中のぐちゃぐちゃとした世界や不安感の表現が見られた．また，#5「サバンナ（図 3)」や#20「人間を追い出そうとする動物（図 9)」では，肉食獣が多数配置され，Cl の心の中の攻撃性が理解された.これらは，Cl の心の有り様を示唆しているだろうと考えられ，そのような心の表現過程を経て，症状が軽快･消失するという治療的変化を見せている．

(2)治療面接経過における治療的退行の検討

箱庭初期では，#5「サバンナ．ライオンがシマウマを食べようとしている（図 3)」，#7「海の世界．タコが魚を食べようとしている（図 4)」という表現がある．これらは，木田（1979）が言う歯が生えてきた赤ちゃんが母親のおっぱいを噛むことに代表されるような，口愛期まで退行した口愛期的攻撃性の表現である．

Cl は 38 回の面接の中で S-HTP など心理検査としての描画を除き，計 22 枚の絵を描き，1 枚のコラージュを作成した．絵には「食べ放題」，「食べもの」，「クリスマス」というタイトルにあるように，食物が登場するものが多く，計 8 枚ある．代表的なものは，回転寿司を食べている#14「食べ放題」，#17「食べものの世界」，#25・#31・#32「食べもの（一部を図 12 に示

した)」，#35「給食と風船」といった具合である．#26で描かれた「クリスマス」は小此木・馬場（1972）によると，口愛的な欲求または，それに飢えた自己像を社会的なものに昇華した表象を意味していると言う．#37の箱庭（図15）は，猫がかき氷を食べてベロを出してくつろいでいる作品を制作している．これらは，口愛的退行を意味し，依存対象への甘えの欲求やそのような欲求が満たされる自己像の表現であると考えられる．

さらに，＃7の箱庭では海に沈んだ海賊船にサメが群がり，海藻がうじゃうじゃと生い茂る海の世界（図4）が表現される．#9の「動物の住む世界（図5)」では，鬱蒼としたジャングルの密林があり，樹木には複数の爬虫類がぶら下がっている．Clの心の中には不快なものが広がっており，自分の中にうっ積していたものを噴出させるような表現の仕方である．特に#9のぐちゃぐちゃとしたジャングルの密林は，放出した汚物を思わせる．この排泄物を思い切り出すようなあり方は，肛門期的退行ではないかと考えられる．そして#15「豊かな森（図6)」では，#9のジャングルほどではないものの，ややぐちゃぐちゃとした木々が生い茂った森を表現し，再び不安定な心の世界を排出する．#18になると，「道路（図7)」というタイトルで工事を行うための囲いができ，自ら心の土壌を開拓していくような動きが生じてきた．その後，#20「人間を追い出そうとする動物（図9)」という箱庭を作り，初めて人間が1人配置され，動物たちが人間を外に出すというエネルギッシュな動きが出てくる．この「出す」というのは肛門期を思わせる表現であり，小此木・馬場（1972）は肛門期的傾向を持つ表現として「襲撃」を挙げている．つまり，#20では肛門期まで退行し，心にとっての異質なものを排出するという表現がなされたと考えられる．

#20を最後に肉食動物は登場しなくなり，#22では初めて人間が複数人登場し，犬や猫を中心とした小動物が配置される形へ変化し，#27では「街（図11)」が完成した．#34「動物の侵略．人間が土地をまとめていたけど，動物たちが入って来て困っている（図13)」で登場する動物は，猫や犬，鳥，ペンギンなどで，#20の肉食獣に比べると相談や話し合いができそうな雰囲気である．また，#20の動物が人間を追い出す形とは異なり,人間が不完全ながらも土地や動物をコントロールしようとしているあり方に変わり，Clの心の退行表現もより現実適応的な表現に変容している．

このようにClの作品に見られた口愛期への退行表現は，初期の噛む，食べるといった口愛期的攻撃的な表現が，#14以降は飲み食いして楽しむという，母親のおっぱいを飲んで満たされることを思わせる依存的・受け身的な口愛期レベルまでさらに退行し，心的エネルギーをチャージし，心の態勢を整えたと考えられる．箱庭表現の中には，肛門期的な排出する表現も見られ，ぐちゃぐちゃと排出するあり方が，#20では異質なものを外に追い出す形へと，より適応的な表現になっていった．この適度な退行表現は，創造的・生産的退行である．それによりClは可逆的に柔軟性を取り戻し，現実に適応できるようになったと考えられる．

（3）治療的退行を促進するための必要条件

①治療の場に保護者の役割を位置づけ，治療構造を整えていく視点

#2において，Clは母親の帰宅が遅かったからという理由で遅刻をしており，治療初期からThの中では母親に毎週のClの通院を意味あるものだと理解してもらう必要性を認識していた．しかし，そのことについて母親と話し合うことはできていなかった．Thが棚上げしてきたこの問題は第3期には大きくなり，Clの塾や学校行事，母親の仕事の都合などで1ケ月以上のキャンセルが続き，たびたびの遅刻が見られた．#18の翌週，母親が「話がしたい」と来院し，Thは母親と面接をする機会を得る．母親からはClの症状が落ち着いてきており，勉強に対しての意欲も出てきていることを理由に，面接の頻度を減らすことを示唆する発言があった．

Clが面接を通して，自分の心と向き合うという事態は，父親と別居し，母親，Cl，妹の3人家族で様々な心の本音部分は曖昧にしたまま，それなりに安定していた家族を根底から揺り動かすことであったのだろうと考えられた．Clを心の治療に連れて来ることは，母親を家族のあり方に直面させ，見つめ直さざるを得ない状況にし，そのことが母親思いのClを不安にさせたと思われる．結果的にそれらのことが1ケ月以上の面接のキャンセルや度重なる遅刻に繋がった．

このような状況理解に基づき，Thは母親に当初の約束であった週1回の来院を守ってほしいこと，小学校を卒業するまでの今の時期が重要であることを説明した．母親はそれに理解を示し，面接の枠組みを安定させる方向に対応を変化させた．それを感じ取ったClは安心して自分の心に向かい合えるようになった．西園（2017）は，Clの「退行状態に対する治療者の理解と介入のあり方が治療の成否に関わる」ことを指摘しているが，これは面接場面での治療者の対応についてのみ言えることではない．Clが治療の世界に集中でき，安心して治療的に退行できるよう，Thは心の本音を表現できる時間と場所を安定的に提供するための治療構造の整備が必要である．また治療対象者が子どもの

場合は，保護者の治療に対する理解と協力がなければ治療継続は難しい.その意味で，保護者は Cl を治療へと結びつける重要なキーパーソンである．Th は保護者が治療についての肯定的な意味づけを持てるよう，保護者との連携の中で，必要な状況に応じて時間を確保して，Cl の状況を伝えると同時に，保護者の心の状況を“ゆっくりと聴ける時間”を確保することが重要となる.

②Cl の退行した心の世界を治療者が共感的に理解して受け止めてあげられること

Th は Cl の作る箱庭や絵から Cl の心のイメージや気持ちを感じようと努めた. と同時に, それらが Th の前で表現されたことの意味を受け止めるようにした. 小此木（1983）は治療関係における夢の取り扱いについて, 夢分析をするだけでは不十分であり,「この夢をこうして治療者に，なぜ，いま，患者は語っているのか，われわれはもう一つの現在の治療状況として理解しなければならない．それは，この夢を私に語っているというところに，ある種の反復がある」と述べている．箱庭や絵という心の表現が Th の目の前で展開するのは，そこに Cl の行動に反復して現れてくるものがあり，小此木（1983）は治療的退行と反復が起こってくることは，同義であると指摘している.

具体的に言うと, Cl には海をテーマにした 5 回の箱庭と 2 枚の絵の表現がある．箱庭では#7「海の中．海賊船が海に沈む（図 4)」, #13「北極」, #16「にぎやかな海」, #23「北極」, ＃24「海底とアマゾン，海底では生き物が砂の中に隠れている（図 10)」．絵は#19「海の中で生き物が楽し気に泳いでいる（図 8)」, #34「夕日が海に沈む（図 14))」であった．事例の第 3 期で述べたように，海（la mer，ラ・メール）は退行した Cl が表現した母親（la mère，ラ・メール）イメージでもあると考えられた．海である母親は雄大で大きく，穏やかに包み込んでくれる母親である．一方で，北極の冷たい海，荒れ狂い人や船を簡単に呑み込んでしまう大荒れの海のような母親のイメージでもある．母親は支えとなる夫が不在の中で，《ゆったりとした穏やかさ》と《呑み込み命をも奪ってしまう牙を持った》海のような存在であったのではないか．そのような母親の二面性を近くにいて，誰よりも感じ取っていたのが Cl であり, 作品にはそのような Cl の反復があると Th は理解し，受け止めた.

#17 の面接後，母親から「Cl が 2 週に 1 回でいいと言っている」と面接頻度を減らす提案があり，#18 の面接後は「時間的に Cl が塾と通院することのやりくりがつかない」という話がある．母親を通して聴く Cl の様子は，＜それは母親の考えではないか＞と Th には考えられることであった．これは Cl が荒れる母親の気持ちを感じ，恐れて母親の気持ちを配慮しているのだろうと Th には感じられた．このような状況は，日常生活の他の場面でも色々とあるのだろうと推測され，Th は母親と調整し，1 週間に 1 回の面接を守る必要性を伝え，小学校卒業までは面接頻度を減らさないことを強くお願いした.そのことを母親は理解してくれ, Cl にもそのことが伝えられると, そこで初めて Cl は安心して自分の気持ちに沿った心の動きができるようになった．#20 は一旦キャンセルとなったはずの面接が Cl の希望で実施され, それ以降, 安定した治療構造にも支えられ，本事例が展開していった.

こうした流れを生み出す背景には，治療的退行という状況を Th が感じ取り，治療の場で表現される母親－Cl 関係などを含めた“Cl の心の世界”を理解する Th の共感的理解があったと考えられる．このような Th のあり方こそが，Cl の治療的退行を適切に維持・促進するために必要であったのだろうと考える.

引用文献

馬場禮子（1990）治療者の退行―その特質と意義について―．精神分析研究，34（4），275－277.

馬場禮子（2016）改訂　精神分析的人格理論の基礎 岩崎学術出版社，東京.

Freud,S.(1900)Die Traumedeutung.高橋義孝（訳）（1968）夢判断. フロイト著作集 2.人文書院,京都.

Gitelson,M. （ 1962 ） The curative factors in psychoanalysis. The International Journal of Psychoanalysis,43(4,5),194-234.

木田恵子（1979）子供の心をどうひらくか　やさしい精神分析．太陽出版，東京.

Kris,E.（1934）Psychoanalytic Explorations in Art. 馬場禮子（1976）（訳）芸術の精神分析的研究．岩崎学術出版社，東京.

西村良二（2012）精神療法の進め方―恐怖・強迫の物語の骨格を中心に―．精神神経学雑誌，114（11），1323－1329.

西園昌久（2017）治療的退行論．精神療法，43（2），72-74.

小此木啓吾・馬場禮子（1972）精神力動論. 医学書院，東京.

小此木啓吾（1983）想起，反復，徹底操作（その二）と治療的退行．精神分析セミナーⅢ　フロイトの治療技法論，小此木啓吾・岩崎徹也・橋本雅雄・皆川邦直（編著）: 155-183.岩崎学術出版社，東京.